

畜産業の現状と課題、目指す方向について

平成 30 年 11 月
京都府農林水産部

府内における畜産物の消費

京都の畜産物の消費は全国トップレベル

(総務省 H25家計調査(二人以上世帯) : 全国都道府県庁所在地・政令指定都市比較)

品 目	1世帯あたり	
	購入金額の順位	購入数量の順位
牛 肉	1 位	1 位
鶏 肉	3 位	1 4 位
牛 乳	2 位	7 位
バター	2 位	2 位
卵	3 位	1 4 位



府内産畜産物の評価



- ・府内産の畜産物は各種品評会で最優秀賞を受賞するなど、品質の高さが各方面で認められている。

牛乳

アケイシア・ファーム 丹後野村牧場（京丹後市）

近畿府県において最も良質な生乳生産に取り組む酪農家を表彰する

High Quality Milk Award2014で**最優秀賞**、2018にも**優秀賞**を受賞

牛肉

京都丹波牧場（南丹市）

5年に1度開催され「和牛のオリンピック」と呼ばれる第11回全国和牛能力共進会（平成29年開催）の「肉牛の部」において、**全国第2位、第5位**を受賞

国内屈指の共進会、近畿東海北陸連合肉牛共進会で**2年連続農林水産大臣賞**を受賞

豚肉

日吉ファーム・質美分場（南丹市・京丹波町）

全国から良質な豚肉が出品される第5回全日本豚枝肉コンクール（平成29年開催）で、最優秀賞である **農林水産大臣賞（名誉賞）** を受賞

平成25・26年に続き3度目の受賞

家畜の飼養状況、畜産物の生産状況

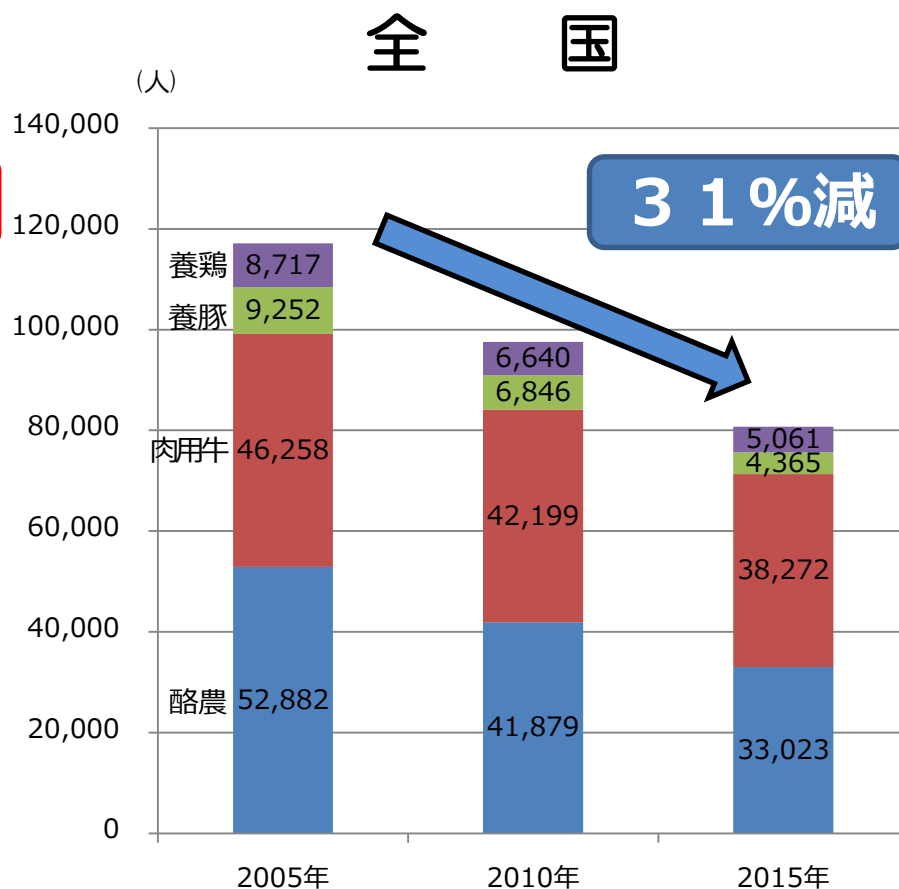
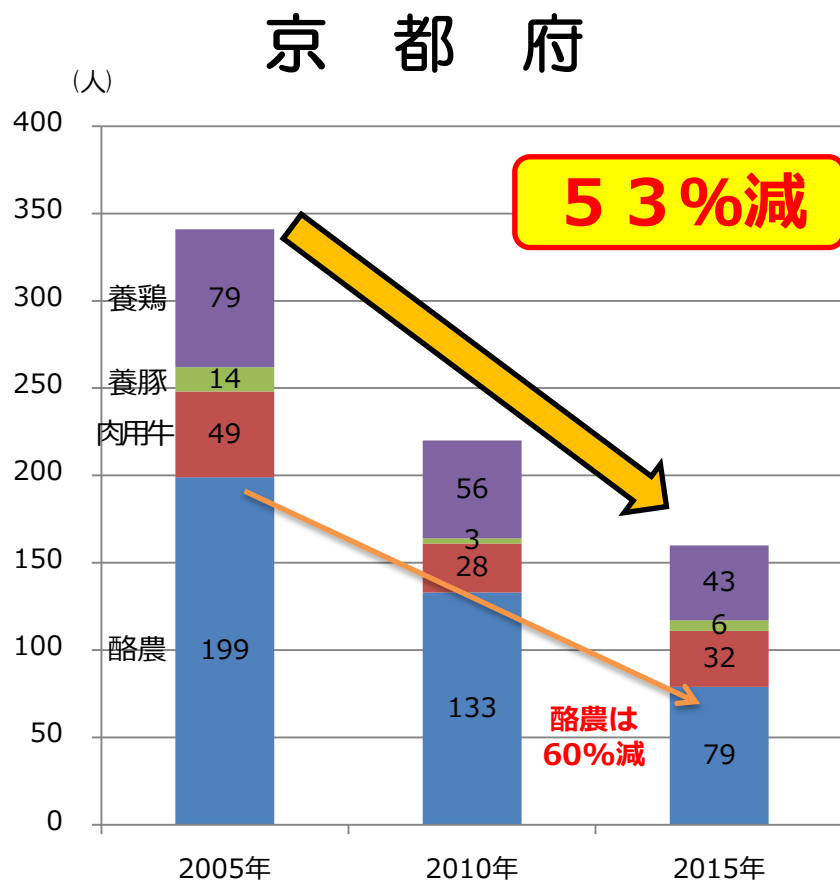
- ・家畜の飼養頭羽数は全国的に見ても小規模(30~40位)

区分 (生産物)	戸数 (戸)	飼養頭羽数 (全国順位)	生産量(ト)) (全国順位)	生産額 (億円)
酪農 (牛乳)	52	2,960頭 (35)	27,890 (33)	35
肉用牛 (繁殖牛)	64	800頭 (38)	—	—
肉用牛 (牛肉)		5,820頭 (35)	1,650 (35)	21
養豚 (豚肉)	8	14,600頭 (41)	1,636 (42)	12
養鶏 (鶏卵)	28	140万羽 (29)	26,621 (28)	60
養鶏 (鶏肉)	13	44万羽 (33)	6,166 (31)	10
合計	165	—	66,118	138

(戸数・飼養頭羽数：京都府調べ、生産量・生産額：2017年畜産物流通統計)

畜産業従事者の状況

- ・ 畜産業従事者は、直近 10 年間で全国では 3 割の減に対し、京都府は半減
- ・ 京都府においては、特に酪農の従事者が 6 割も減少



(資料) 農林水産省「農林業センサス」

畜産経営の構造と目指す姿

- ・ 畜産農家全体の約7割は家族経営、また、65歳以上の家族経営者の3/4が後継者が不在
⇒これらの経営体では、飼料や子牛の価格高騰等で将来を見通せず、そのほとんどが廃業を検討
- ・ 畜産業は、初期投資が大きく新規就農・参入が困難なことから、就業促進により次世代の担い手を確保することが重要
⇒法人化により就労環境を整えることで、外部人材を呼び込むとともに、円滑な経営継承を実現
戸数の減少に歯止めをかけつつ、持続的な経営体を育成する

現 状(2018)									目指す姿(2040)		
畜 種	総 戸数	法人経営		家 族 経 営				法人経営			
		戸数	頭羽数 シェア (%)	戸数	経営者が 65歳以上 の戸数	割合 (%)	後継者 のいる 戸数	割合 (%)	戸数	頭羽数 シェア (%)	
乳用牛	52	9	52	43	22	51	5	23	30	90	
肉用牛繁殖	64	1	87	43	25	58	7	28	繁殖	6	90
肉用牛肥育		12		8	2	29	0	0	肥育	5	
養 豚	8	5	92	3	2	67	0	0	一貫	9	
採卵鶏	28	9	95	19	6	32	3	50	引き続き 頭羽数シェア 90%以上を維持		
肉用鶏	13	8	89	5	2	40	0	0			
合 計	165	44	-	121	59	48	15	25	(京都府調べ)		

取組事例①（家族経営の法人化）

- ・ 先代を引き継ぎ法人化した府内酪農家からは、生産規模の拡大など夢が持てる経営が行えるようになったとの意見

法人化前

- ・ 将来を見据えた資金計画が立てられない。
- ・ 資金計画が立てにくく、家族を養うことに不安。
- ・ 従業員を雇いたいが、労働時間や休みが不規則なため募集しても希望者がいない。
- ・ 所得向上のために、どのように取り組めばいいかわからない。



法人化後

- ・ 会社のお金と個人のお金を明確に分離し、経営体としての収支を見極められる。
- ・ 自分や家族、従業員の給与体系を確立出来たことで、生活設計も出来るようになる。
- ・ 社会保険や就業規則等の整備により、従業員募集で人が集まる。
- ・ 用途不明の支出等が明確になり、計画的な経営を行える。

**今後は、廃業する農場を買い取り、従業員に暖簾分けして、生産規模を拡大したい。
（夢が持てる経営が行えるようになった。）**

取組事例②（肉牛経営のコスト低減）

- ・高騰する子牛価格によるコスト高への対応するため肥育経営の一貫経営化の動き

【国内及び府内家畜市場における子牛価格の推移（千円/頭）】

年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
国内	386	361	389	398	419	503	571	786	815	769
府内	393	360	395	403	430	478	570	725	787	689

主要な家畜市場における子牛の取引状況（黒毛和種）：独立行政法人農畜産業振興機構

和知町升谷畜産振興組合

- ・老舗牛肉屋である「モリタ屋」直営牧場として、府内でいち早く和牛肥育部門と和牛子牛生産部門を持ち、**京都生まれ、京都育ち**の牛づくりに取り組む

その他の農場の動き

- ・肥育牛農場が自ら繁殖経営に乗り出す動き
⇒肉用牛肥育農場(法人) 13法人のうち2法人と1グループ(7戸)が繁殖経営に乗り出す意向

取組事例③（6次産業化や観光との連携）

- ・小規模で生産量が少ない中で付加価値の向上に取り組む事業者も存在



有限会社 丹後ジャージー牧場 ミルク工房そら

昭和58年 ホルスタイン種からジャージー種に変更
平成12年 「ふれあい牧場丹後ジャージー牧場」として法人化
平成16年 乳製品製造工房「ミルク工房そら」をオープン

牧場と直売店を併設し、丹後地域の観光拠点として確立



(有) 日吉ファーム

良質なブランド豚肉の生産、食品残渣の飼料化
持続可能な養豚経営を実現するため、地元住民と良好な関係を構築
府内産豚肉を直接府民に提供するため、「丹後王国『食のみやこ』」に直営店を開店

家畜伝染病の発生状況

- ・鳥インフルエンザをはじめとした家畜伝染病は継続して発生しており、経営上の多大なリスク

【家きん：国内における鳥インフルエンザの発生農場数と殺処分羽数】

年度	発生県（発生順）	農場数	殺処分羽数(万羽)
H16	3県：山口、大分、京都	4	27
17	2県：茨城、埼玉	41	578
19	2県：宮崎、岡山	2	17
21	1県：愛知	7	160
22	9県：島根、鹿児島、愛知、宮崎、三重、奈良、和歌山、大分、千葉	24	348
26	5県：熊本、宮崎、山口、岡山、佐賀	6	38
28	9県：青森、新潟、北海道、宮崎、熊本、岐阜、佐賀、宮城、千葉	12	167
29	1県：香川	1	9
計		97	1,344

【偶蹄類（牛・豚）：国内における口蹄疫の発生状況】

年度	発生県（発生順）	農場数	殺処分羽数(頭)
H12	2県：北海道、宮崎	4	740
22	1県：宮崎	292	210,000
計		296	210,740

【豚：国内における豚コレラの発生状況】

- ・今年9月に国内で26年ぶりに発生（2戸、610頭）全頭殺処分
- ＊11月19日現在、発生農場周辺の野生イノシシ50頭からもウイルスが検出

畜産業の課題と目指す姿

現状と課題

- 強み
 - ・ 府内産畜産物の**品質は高い**
 - ・ 国内外からの**観光客が多い**
- 弱み
 - ・ 廃業や担い手不足により**生産基盤が弱体化**し、今以上の生産量増加が難しい
 - ・ 生産量が少なく**ブランド力も弱い**ため、府内に供給される周辺府県からの畜産物に埋没

目指す姿

家族経営の**法人化が進み**、次世代の後継者に**経営が継承される**とともに、全国トップレベルの衛生管理、**生産性の高い飼養管理**が行われ、**安定的かつ継続的な畜産経営が**大宗を占めている

施策の方向性

- ・ **法人化**による経営力の向上や人材（後継者や雇用者）の確保
- ・ 京都の地の利を生かし、**高付加価値による有利販売**や**国内外におけるブランド化**
- ・ 畜舎環境の制御や管理の自動化、衛生レベル向上のための **ICT導入**